



3. キャンパスマスタープランに対する期待と評価検証 3-1. キャンパスマスタープラン作成時の調査・意見集約

平成16(2004)年の策定作業時から平成24(2012)年現在までの、キャンパスマスタープランに関連する各種調査等の概略結果とそのまとめを順を追って解説(3-1、3-2節)したのち、平成24年現在の意見集約(3-3節)結果をまとめる。これと合わせて、これまでの整備成果との関係を概観・検証したうえで、キャンパスマスタープランへの期待と評価検証をまとめる(3-4節)。

3-1. キャンパスマスタープラン策定作業時の調査・意見集約

キャンパスマスタープランを作成立案するにあたって、豊中・吹田地区の構成員や地域住民を対象としたアンケート調査と、各キャンパスのワーキングメンバーに対するヒアリング調査を行っている。

さらに、平成19年の大阪外国語大学との統合をうけて、平成20年にも、箕面キャンパスマスタープランを策定するためのアンケート調査等を、箕面地区の構成員と近隣住民を対象に行っている。

3-1-1. 豊中・吹田キャンパスアンケート調査(平成16(2004)年)

<調査概要>

平成16年10～11月にハガキ配布とインターネットによるアンケートを実施した。回答数は364、うち大学構成員は80%、それ以外が20%であり、当時の大学構成員の約1.4%に相当する。回答者の活動地区の割合は、吹田31%、豊中48%、両方が10%であり、吹田地区の方が、教職員の割合が、豊中地区よりも多かった。

<調査結果>

a. メンテナンス・マネジメントへの要求と期待

- ・ 食堂、トイレの充実、滞留スペースの確保、外部空間の充実、駐車駐輪場の整備、清掃、植栽などの維持管理に関する意見が多く、従来はメインと考えてこなかったジャンルであった。
- ・ 建物の老朽化に対する不満よりも維持管理の不十分なことによる汚さや、ゴミ処理に対する苦情を指摘する意見が見られた。

b. キャンパス計画への期待の全体的な傾向

- ・ 「キャンパスであなたが最もくつろげる場所」に対する回答で、「職場(研究室等)」、「豊中附属図書館(現総合図書館)」が多くを占めたのは、それ以外に「くつろげる場所」が阪大にいかにも不足しているかを物語っている。
- ・ 「阪大のシンボルといえば何をイメージしますか」に対する回答で、「イチョウ」という回答が他を圧して占めたのは、阪大にシンボルとなるような魅力的な建物がないという事実を示している。なお、3位であったイ号館は平成23年に、大阪大学会館として生まれ変わり、周辺広場の整備と合わせて、より強いシンボル性格を獲得している。
- ・ 「阪大キャンパスを魅力的にするためには何が重要だと思いますか」への回答では、「きれいでおしゃれな飲食店」が、「シンボリックな建物」、「芝生の大きな広場」を引き離しており、身近で、楽しく、現実性のある環境へのベーシックな欲求を示している。
- ・ 「その他阪大について日頃感じていることについて具体的に書いてください」への回答の「食堂の充実が必要」、「憩える施設・場の整備」にも、キャンパスへの最も基本的な期待が現れている。
- ・ 「あなたのお気に入りの場所・風景はどこですか」に対する回答では「共通教育前広場」、「大阪大学会館からの眺め」「待兼池周辺」と意見が分かれた。
- ・ 「これからの大学に何を期待しますか」への回答には「開かれた大学」「地域との交流」といった答えが多数を占めた。
- ・ 全体的に見て魅力のある場所、お気に入りの場所は的確に捉えられている。無いという否定的な意見も多いが、ポテンシャルのある場所はそれなりによく認識されていると判断できる。そのポテンシャルを活かす工夫が必要で、そのためにはハード整備だけではなくソフト対策も重要である。
- ・ 魅力のある場所、お気に入りの場所は、キャンパス全体で見れば「図」として浮き上がって見える部分である。これに対して「地」としてのきめ細かい対応の重要性の指摘も多い。「自然を活かすこと」、「その状態を良好に保つべきこと」、「公共・共用部分のメンテナンス・清掃等を適切にすること」などに意見があり環境整備上は極めて重要な指摘である。

3-1-2. 豊中・吹田各キャンパスワーキングでの意見(平成16(2004)年)

a. 豊中地区

- ・ 大学が何を望んでいるかの議論が大切である。
- ・ 歩行者が裏道のような汚いイメージのある環境(柴原口～基礎工裏)を歩いている。
- ・ 学生が集まる屋外の場所が少ない。建物中心の計画が先行しており広場計画が欠けている。
- ・ ここには建物を建てないで空地を残すという計画が大切ではないか。
- ・ 施設の整備計画と同様に施設の改築計画も大切ではないか。これ以上緑地、駐車場のスペースを無くしてよいのか。
- ・ 会議場、ゲストハウスの必要性、旧医短跡地の活用、歴史的建造物の保全と活用
- ・ 運動施設の拡充
- ・ コミュニティ・キャンパスの実現ー「ユニバーシティ・ミュージアム」(総合学術博物館の活用)
- ・ 両キャンパスの「自然環境の開放」
- ・ 知的財産(図書や学術標本など)の保存の重要性

b. 吹田地区

- ・ 外部からのアイデア募集、コンペの実施等が考えられないか、またマスコミも巻き込んで作成。
- ・ 建物計画よりもキャンパスにおける道路、駐車場、駐輪場、広場、植栽、及び建物と建物を繋ぐ空間をどう構築するのが大切である。
- ・ 学生、教職員の健康増進を図るような施設(ジム等)
- ・ 大学の顔となるようなものが必要であり、現在の阪大にはそのような施設がない。
- ・ 学生の溜まり場、学生が長く大学に滞在するような場の整備が必要である。また夜間に利用できる施設も大切。利用にあたっては学生のモラル教育も大切となる。
- ・ 理念目標の設定はよいことであり、これまでの計画に比べ次元が高くなった。
- ・ ばらばらな施設整備にならないように、デザインの統一を図ることが大切
- ・ 犬飼池周辺を公園あるいは憩いの広場に
- ・ 豊中キャンパスー千里中央ー吹田キャンパスーJR茨木間の回遊バス
- ・ 民博との協調
- ・ 阪大病院前を地域住民が徒歩で進入可能な交流空間、ビオトープ回遊庭園にする。阪大が駅ビル機能をもつ建物を作った方がよい。

3-1-3. キャンパスマスタープランの中核とすべき考え方(平成17(2005)年)

以上の調査・ヒアリングを元に、平成17(2005)年度のキャンパスマスタープラン策定ワーキングメンバーは、下記の5項目を重視することとした。

A. 長期的指針と短期的にすぐに取り組む部分の明確化

土地利用計画など長期的に取り組む部分と、すぐに着手できるもの、必要最低限として整えるべきものを明示。土地利用計画は、緑地、道路、駐車場・駐輪場を有効に整備する方針を明示することで、いわば乱開発を未然に防ぐ。

B. キャンパスにおける魅力の核、シンボリック空間の形成

シンボリック空間は、

- ①人の活動との適合、
- ②意味性(歴史性、記念性やメッセージ性)
- ③形態の個性(色、形、周囲の風景とのコントラスト)
- ④空間の広がり

の4要素が重要であり、「くつろげる場所」、「歴史・伝統・研究・先進性の表現」、「おしゃれな建物」、「芝生広場」等と一体的に、キャンパスの全体構成に則して考える。

◇イメージの骨格(パス、ノード、ランドマーク)をつくる。



3-2. その後の関連する各種調査

C. 交通計画の方針の明確化

(1) すべての人が安全に快適に移動できる空間形成

◇施設整備

- ・自転車駐輪場の分散配置
- ・自動車駐車場の周辺配置（歩行者、自転車と自動車との交錯回避）
- ・空間の機能に合わせた道路空間の再配分
- ・バリアフリー化された道路と施設へのアクセス

◇啓発・教育

- ・自転車マナーの周知徹底等

(2) 利便性の高い環境づくり

◇キャンパス間連絡バスのサービス向上

◇キャンパス内の移動、自転車の利用

D. 賑わい、交流の核の形成

- ・レストランやカフェ、コンビニ、書店などに民間企業を誘致し、福利厚生面を充実させ周辺地域の住民も気軽に訪れるようにする。
- ・書店には専門書を充実させ、本を座って茶を飲みながら読めるようにしたり、セミナー室等を併設して公開講座を開くなどで、地域に開かれた大学をアピールする。

E. 自然資源を活かした魅力の形成

◇活かすことのできる緑空間の把握

- ・骨格となる緑地（街路樹、路傍の低木など）にはシンボリックな性格を持たせる。
- ・法面緑地、その他の緑地についても整備のガイドラインを作る。

3-1-4. 箕面キャンパスでの調査（平成20（2008）年）

箕面キャンパスマスタープラン策定にあたっては、構成員、地域住民へのヒアリングやアンケート調査（10～12月、合計回答数585通）が実施された。詳細は「箕面キャンパスマスタープラン」2章を参照されたい。ここでは2-1-4節「意見聴取のまとめとマスタープランへの援用」から抜粋引用する。

a. キャンパスのアイデンティティ・個性・シンボル

キャンパスのイメージに関しては、中庭・大階段（通称：墓石階段）に関するものが支配的であった。また眺望・夜景に関する記述が非常に多く、これらを活かす計画が今後も必要である。

b. 現在のキャンパスのよいところ

「まとまりあるコンパクトなキャンパス」、「地域との交流が盛ん」、「眺望のよい地形」、「緑が豊か」といったイメージがあることがわかった。

c. 維持管理、特にプリメンテナンスの重要性

維持管理に関する回答は大きな比重を占めており、改めて維持管理の重要性が確認できた。

d. 全体イメージコンセプトへのヒント

「明るく、かつ静かで、活気がある」というイメージコンセプトを導き出すことが可能で、コンパクトなキャンパス・眺望の良い地形・緑が豊かといった条件ともに良く合うと思われる。

3-2. その後の関連する各種調査

3-2-1. 交通安全アンケート（平成22（2010）年6月）

キャンパス内の交通安全対策を有効に実施するため、危険箇所、要因、通勤通学に用いる交通機関、概略居住地域を問うことと同時に、バスロータリー+集約駐輪場計画案(当時案、現在は凍結)、ならびに自転車有料登録制(当時案、現在は凍結)への賛否を問う、ハガキ配布形式のアンケートを行った。

合計回答489通（豊中152、吹田296、箕面41）。なお、豊中・吹田では概ね有効なサンプルが得られたが、回答が教職員に偏っていること、配布方法に問題があり、特に箕面では学生の回答が0%であったことは注意を要する。以下に得られた意見・知見の概略をまとめる。なお6章でも、キャンパス内各所の危険要因を指摘する意見をまとめている。

- 各キャンパスの危険個所のプロットと危険要因まとめが得られた（6-1節参照）。
- 自転車入構規制案について、利便性低下（通学、学内移動）に対する反発が極めて大きい。自転車有料登録制案に対する反発も大きい。
- 集約駐輪場建設自体に関しては賛否が分かれるが、駐輪場の分散配置と十分な容量が求められている。
- バスロータリー建設の必要性は認知されているが、位置については賛否がやや分かれる。駐輪場問題を別にすれば、理学部前案に対する賛成は、反対よりも多い。
- バス・自転車の危険性は概ね認知されているが、駐輪は景観上の問題とは考えられていない。
- 自転車入構規制・有料登録制に関して、不正を防ぎきれない・制度運用に失敗する、という意見が多い。
- 自転車入構規制・有料登録制を導入した場合、周辺地域への悪影響が懸念される、という意見も多い。
- 自転車よりも自動車・バイクを規制するのが先決、という意見が多い。
- 自転車レーン（歩行者/自転車分離、特に阪大坂）を求める意見が多い。
※阪大坂を歩行者/自転車分離にした場合、自転車の速度が上がり、死亡事故の発生が充分想定される。
- 阪大坂入構規制（H18年実施）に対して、現在でも反発が大きく、意義が理解されていない。
- 本アンケートの情報提示、告知の方法、大学の整備姿勢などに対する不信感が非常に大きい。

3-2-2. 第22回学生生活調査（平成22（2010）年）

学生生活委員会ではほぼ4年おきに、学部学生および大学院学生の経済状態、生活環境、健康状態、修学状況、課外活動、就職活動等を中心に、学生生活の実態や意識・要望を把握するための調査を、継続実施している。第22回調査では、特に各種広報で周知を計った上でインターネットにより学部学生2297名、大学院生693名からの回答を得た。

以下に、キャンパス計画に関連すると考えられる項目を挙げる。

a. 通学状況

・通学手段

学部生・大学院生ともに公共交通機関・自転車・徒歩が全体の8割を占め、前回の調査よりも自動二輪・原付や自動車の割合が減少しており、経済的な状況が関係していると考えられる。

・通学所要時間

学部生・大学院生ともに下宿生はほとんどが30分未満であり、自宅生はほぼ全員が30分以上かかるという結果になり、全体的に前回の調査と変わらない結果である。

・車両所有、使用

前回の調査と比較して運転免許を取得していない割合が増加している。特に、学部生では自動車の取得割合が大きく減少している。また自由に使用できる自動車の割合も大きく減少し、バイクについては大学院生では変化が少なかったが、学部生では減少している。

・土日通学

文系よりも理系の方が土曜日に登校する学生が多く、大学院生の方が学部生より多い。日曜日と同様だが、全体的に登校する学生の割合が減少する。

b. 授業の合間に過ごす場所

学部生では教室等・図書館・食堂等で過ごす割合が多く、前回の調査に比べて教室等が10%以上も減少し、その分図書館が増加している。大学院生では教室等で過ごす人がほとんどだが、前年に比べ教室等は若干減少し、その分図書館やコンピュータ室がわずかに増加している。

c. 食生活の状況

・主に利用する学生食堂

豊中では図書館下食堂の割合がその他のものに比べて多い。吹田では工学部学生食堂ファミールの割合が多いが、これは工学部の学生数が多いからだと考えられる。箕面では箕面福利会館レインボーの割合が多くなっている。

・学生食堂の食事内容の満足度

回答数が非常に少ないものを除いて、ほとんどの食堂で満足している学生が50%以上を占める。食事内容が美味しくないという不満が減少している反面、品数が限られている、値段が高いという不満は増加している。

・学内食堂での待ち時間

全ての食堂において待ち時間は5分程度であるが、学内食堂の好ましくない点として学部生、大学院生ともに「混雑していること」が多く挙げられており、待ち時間に関して不満をもっている学生は多い。

・学内食堂の快適度

少数意見を除いて、ほとんどの食堂で満足している学生が50%以上を占める。しかし、工学部学生食堂ファミールは、どちらとも言えないと回答している学生が40%を占めており、他の食堂に比べて快適度は低いと言える。



3-2. その後の関連する各種調査（その2）

- d. **キャンパスへの意見（自由記述）**
「図書館の開館時間を長くしてほしい」「24時間利用できる施設がほしい」「整備されていない部分が多い」「各キャンパス間での格差が激しい」「建物が汚い」などの意見があった。
- e. **授業出席状況**
70%強が「9割以上出席している」、10数%が「7割以上出席している」と回答している。ただ学生調査に回答する学生は比較的大学生活へのコミットメントが大きく、出席率が高いということもあり得る。この出席率は、教員の実感よりは多少高いという印象がある。また、1、2年時の方が3年生以上より多少出席率が良い傾向が見られる。
- f. **施設・設備の満足度**
- ・教育用施設・設備
全体として教育用施設・設備等には50%以上の学生が満足している。しかし吹田・箕面キャンパスの学生からは、建物自体が古く汚い、設備の充実度における豊中キャンパスとの格差が大きいという意見が挙げられている。
 - ・研究用施設・設備
50%以上の学生が満足している。しかし、泊まり込みで研究をする学生が多いため、研究室の狭さや衛生面、設備の整備の不十分さなどが指摘されている。また外部の音がうるさいという苦情も多い。
- g. **サークル活動**
学内外でサークル活動をしている学生は増加傾向である。文化系と体育系のサークルに加入している学生の割合はほぼ拮抗しているが、前回調査に比べ、体育系サークルに加入している学生の割合はかなり低下している。サークルが不満足である理由として「施設が足りない」「自分の時間がもてなくなる」「施設が自由に使えない」であり、施設関係の不満が多い。
- h. **ボランティア活動**
ボランティア活動を経験している学生は増加傾向であり、活動内容は「地域社会での奉仕活動」が際だっている。また経験のない学生も半数程度がボランティア活動に関心を持っており、特に女子にその傾向が強い。活動の感想としては、肯定的に評価する感想が大半を占めているが、活動と学業・自分の生活とのバランスに悩む感想や、活動は自己満足に過ぎないのではないかと、懐疑的に見る感想もいくつかあった。
- i. **研究室について（大学院生のみ。スペース満足度、施設満足度）**
研究室的におおむね肯定的な評価がなされていた。ただし、研究スペースや施設設備について理系学生よりも文系学生の方が不満度が高い。
- j. **学内連絡バス（利用率、ダイヤ・土日運行、要望）**
全体の30%がバスを利用している。回答のあった外国語学部生のほとんどが「少ない」もしくは「時間帯によって工夫が必要」と評価している。土曜日や授業休業期間のスクールバスの運行を希望する学生は多いが、現在のスクールバスの利用状況を考えると、土日の利用者は少ないと推測される。要望としては、「授業の時間割に合わせた運行スケジュールの改善」「運行時間の延長」「朝夕等の混雑の緩和」「豊中―吹田―箕面便の本数が少ない」「土日祝の運行」「豊中―箕面直通バスの開通」などが挙げられていた。
- k. **その他要望**
「自転車で校内に入れない所があり不便」「路面状況が悪い」「学生食堂の混雑の緩和」「教室が汚い」「図書館を24時間開館してほしい」「建物が古い」等がある。



3-2-3. 留学生生活調査（平成22（2010）年）

平成21年から始動した「留学生30万人計画」とその中核施策である「国際化拠点整備事業」の一環として、留学生受入れ体制や留学生サポートの現状を把握し、5年後に事業成果を評価する前提として、事業開始時の留学生受入れ体制や留学生サポートに関する現状把握を目的に行った調査である。全留学生に対して5割を越える回収率（有効回答数842）を得ている。

- a. **食堂**
「満足」および「非常に満足」の割合が、55.6%で少し不満、非常に不満の割合が、15.4%となっている。
- b. **店舗**
購買部については、60%以上の留学生が満足と答え、不満に思う留学生は全体の9%あまりである。書店においては60%以上の留学生が満足しており、不満は7%程度である。購買部、書店ともに満足度が高い。
- c. **安全性** … 80%程度の留学生が満足。不満は全体の2%程度。
- d. **案内サイン** … 60%程度の留学生が満足。不満は全体の10%程度。
- e. **キャンパス間移動** … 60%以上の留学生が満足。不満は全体の10%程度。
- f. **その他自由意見では、下記に対する要望や意見が見られた。**
- ・留学生宿舎の不足、24時間使える自習室や一人で集中できるスペースの必要性
 - ・図書館の利用時間延長・土日利用・英文専門書や参考書の充実・返却期限延長
 - ・ハラル（イスラム教で認められた）メニュー、健康的で（野菜が多い）安いメニュー、食堂営業時間の延長
 - ・コンビニの充実、ファーストフード、営業時間、生協商品の低価格化
 - ・フィットネス、プール、テニスコート等、運動施設の充実と、自由に個人利用できること



3-2-4. キャンパスイメージアンケート（平成23（2011）年1月）

キャンパス整備の成果を今後継続的に追跡調査するために、キャンパスの屋外空間の全体的なイメージ、および近年行われた屋外空間改修の、キャンパス環境向上への寄与の程度について、ハガキ配布とホームページで調査し、回答数330（豊中150、吹田122、箕面58）を得た。以下に結果まとめを示す。

- a. **キャンパス全体のイメージについて**
表a.の通り、案内標識類（サイン）のわかりやすさや、バリアフリー、美しさ、居心地の良さなど、キャンパス全体についての満足度が得られた。
- b. **屋外空間改修のキャンパス環境向上への寄与の程度**
表b.の通り、平成19年度以降の各所整備について、通行しやすさ、居心地の良さ、利便さなど、整備目的に応じた環境向上の満足度を得ることができた。
- c. **自由記述において、以下の意見が得られた。**

豊中キャンパス

- ・建物の統一感に欠ける
- ・キャンパスが狭い（狭隘）
- ・大学を代表するモニュメント的な建物がない
- ・憩いの場が少ない
- ・東口通路が狭く通りにくい、階段が滑りやすく危険
- ・自転車、バイク、自動車の交通マナーが悪く危険
- ・迷惑駐車が多い
- ・外灯が少なく暗い、盗難が多い、夜間の人の出入り制限がない等の防犯上の問題がある
- ・案内標識が分かりにくい
- ・スロープ斜度がきついで、石畳が歩きにくい等の、バリアフリー上の問題がある
- ・清掃状況や植栽の維持管理状況が悪い
- ・喫煙マナーが悪い

吹田キャンパス

- ・建物の統一感に欠ける
- ・車中心のキャンパスで、歩行者や自転車が移動しにくい
- ・建物の老朽化に対する意見が多い
- ・自転車、バイク、自動車の交通マナーが悪く危険
- ・外灯が少なく暗い、盗難が多い等の防犯上の問題がある
- ・案内標識が分かりにくい、自動車誘導標識が分かりにくい
- ・段差が多い、歩道の路面状態が悪い等のバリアフリー上の問題がある
- ・清掃状況や植栽の維持管理状況が悪い
- ・喫煙マナーが悪い
- ・食堂の混雑を改善してほしい

箕面キャンパス

- ・他のキャンパスに比べ閉鎖的、活気がない、暗いイメージである
- ・建物の老朽化に対する意見が多い
- ・憩いの場が少ない
- ・外灯が少なく暗い等の防犯上の問題がある
- ・階段や段差が多い等のバリアフリー上の問題がある
- ・スクールバスを増便してほしい

表a. キャンパスの屋外空間の全体的なイメージについての満足度

	豊中		吹田		箕面		全体	
	満足度	加重平均満足点	満足度	加重平均満足点	満足度	加重平均満足点	満足度	加重平均満足点
1)入りやすい雰囲気かどうか	59%	0.7	42%	0.3	22%	▲0.6	46%	0.2
2)キャンパス全体における案内標識類(サイン)について	39%	0.0	25%	▲0.4	28%	▲0.4	32%	▲0.2
3)防犯上の問題について	21%	▲0.4	17%	▲0.4	14%	▲1.0	18%	▲0.5
4)歩行者のバリアフリー(車椅子・杖・重たい荷物をもったときなど)の危険性や不便さ	32%	▲0.1	22%	▲0.5	14%	▲1.1	25%	▲0.4
5)美しさについて	43%	0.1	36%	▲0.1	34%	▲0.2	39%	▲0.0
6)親しみやすさについて	52%	0.4	21%	▲0.2	38%	▲0.2	38%	0.1
7)居心地の良さについて	61%	0.5	31%	▲0.0	40%	▲0.1	46%	0.2
8)清掃の状況について	73%	0.9	49%	0.4	50%	0.3	60%	0.6
9)樹木などの剪定や除草などの状態について	69%	0.8	48%	0.4	62%	0.7	60%	0.6
10)キャンパス内でのマナー(学生・教職員・その他の方々)について	45%	0.2	31%	0.1	53%	0.6	41%	0.2
平均値	49%	0.3	32%	▲0.1	36%	▲0.2	41%	0.1

表b. 近年行われた屋外空間整備・改修の、キャンパス環境向上への寄与の程度についての満足度

整備・改修項目	利便性・快適性				美しさ		
	回答数	アンケート事項	満足度	加重平均満足点	回答数	満足度	加重平均満足点
1)文法経中通り周辺(平成21年度整備)	141	通行しやすさ	75%	1.2	135	82%	1.4
2)チューデント commons 南側(平成21年度整備)	132	居心地の良さ	55%	0.8	129	67%	1.0
3)東口(平成20年度整備)	125	通行しやすさ	54%	0.7	125	62%	0.9
4)豊中総合学館1階ピロティ(平成19年度整備)	129	居心地の良さ	50%	0.5	130	57%	0.7
5)理工学図書館改修(ピロティ)(平成20年度整備)	91	居心地の良さ	65%	1.0	90	71%	1.1
6)病院北通り歩道整備(平成21年度整備)	81	通行しやすさ	43%	0.4	79	49%	0.6
7)U3棟エレベーター新設及び周辺手摺設置	79	利便さ	39%	0.4	79	46%	0.4
8)ウエストフロント新築(郵便局等、平成19年度整備)	86	利便さ	64%	0.8	82	78%	1.2
9)彩都口整備(平成21年度整備)	50	通行しやすさ	56%	0.6	49	59%	0.8
10)各所バリアフリー化(スロープ・扉改修等)整備(平成21年度整備)	51	通行しやすさ	49%	0.6	51	37%	0.4
平均値	-	-	55%	0.7	-	61%	0.9



3-3. 平成23(2011)年の評価・点検

平成23(2011)年に、策定から6年が経過した大阪大学キャンパスマスタープランを全体的に評価・点検するため、豊中・吹田両キャンパスの各部局の施設関係担当・委員に対して、ヒアリングを行った。なお、箕面キャンパスでは、平成19年に同様のヒアリングを行っているため、今回は調査していない。その結果、下記および右表に示す通り、大きく10の項目に分類することができた(各部局個別の問題や要望等は、割愛している)。

1. 広場等の場所性の豊かさ
2. シンボル性やイメージ等
3. 福利施設等
4. 構内交通安全やバリアフリーの問題
5. 防犯対策
6. サインや案内の分かり易さ
7. 建物全般・維持管理
8. 樹木の維持管理等
9. 通学・通勤の利便性(バスの要望等)
10. その他

特に 10. その他には、キャンパス全体の計画にかかわる、下記のような注目すべき指摘があった。

- A. 長期的(20~30年)観点で、病院を含むキャンパス全体の建替えや再編の計画が必要
- B. 広域の防災拠点の観点を盛り込むこと
および
防災の観点からオープンスペースの整備と保全が必要
- C. 地域住民コミュニティとの関わりを深めていくこと
および
「地域に生き世界に伸びる」の理念から、門や遊水池などの位置づけを明確にし、地域との関わりを深める必要性
- D. 省エネや低炭素化の理念を強調する必要がある

3-4. 期待と評価検証のまとめ

前節までの各調査や評価・点検と、平成17(2005)年以来の整備など、キャンパスマスタープランに基づく成果を、次ページの一覧表にまとめた。本キャンパスマスタープラン(平成24(2012)年 部分改定版)は、これらを元にして改定作業を行っている。すぐに対処することが困難な諸問題については、今後の課題として8章にまとめ、次期の全面改訂時に一定の方向性を示すこととする。

豊中・吹田両キャンパスでのヒアリング結果まとめ(平成23(2011)年10月)

分類項目	豊中キャンパス	吹田キャンパス
1. 広場等の場所性の豊かさ	<ul style="list-style-type: none"> 待兼山庭園へ散策路や休憩所をつくるよ 豊中保健センターには学生が使える多目的スペースがあり、利用者に喜ばれている 学生がスポーツできる場所 基礎工学部卓球場付近 	<ul style="list-style-type: none"> 芝生広場、ベンチ、スチューデントコモンズ等が必要 吹田にも学生が自由に使えるスペース(豊中保健センターのような)が必要 体育施設を充実して欲しい
2. シンボル性やイメージ等	<ul style="list-style-type: none"> 総合学術博物館周辺は歴史と自然ゾーンである 大阪大学会館はシンボルとして浸透しておらず、シンボルとなる建物が無い。 大阪大学会館の外壁色が悪いとの意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 千里門整備を心待ちにしている 近年整備された新棟は統一的外観デザインとなっている
3. 福利施設等	<ul style="list-style-type: none"> 食堂の充実 その他の福利施設や全般について 	<ul style="list-style-type: none"> 社研付近には食堂がない 温水プールやジム、外国人や老若男女が使えるものをソフトウエア(音楽会等)の充実が必要 深夜や早朝の営業をしてほしい コンビニの設置を求める キャンパス南東部に福利施設を
4. 構内交通安全やバリアフリー等	<ul style="list-style-type: none"> 動線の交錯 駐輪問題 駐車場問題 道路構造や構成、バリアフリーなど 	<ul style="list-style-type: none"> 幹線道路から人科駐車場へ入る箇所は視界が悪い 言語文化研究科北側で駐輪がひどい 自転車置き場の整備を求める 幹線通り沿い駐輪場一杯で放置自転車が多い 施設建設の際、駐輪場の整備目標値(付置義務)が必要 駐車スペースが足りない 施設建設の際、駐車場の整備目標値(付置義務)が必要 微研裏側は法面造成で駐車場を造り同時に緑化した 外来患者数は当初想定1.5倍となり駐車場の全体計画が必要 千里門の信号が時差式になったが、逆に渋滞が増えた 道路幅と右折レーン設置が望ましい 北門を今のまま開閉すると、事故が予想される。北門はバス専用として開閉することも考えられる。開かれたキャンパスを目指してほしい 北門から車が入構できるようになれば、周辺の有効活用と東門の渋滞解消に期待できる 本部前福利会館近くのハンパの段差が大きい H23に整備した医病前ロータリーにより、渋滞が解消した 外灯を増設して欲しい。特に駐車場
5. 防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> 屋外照明設置要望 セキュリティシステム その他防犯 	<ul style="list-style-type: none"> 外灯を増設工事が実施されたが、まだ暗い場所がある 学部和病院の間でIDカードセキュリティが欲しい 部局を超えたセキュリティカードの統一が必要 キャンパス入構に関して、関係者以外立入禁止と看板にあるが、実際は黙認。整合性が必要
6. サイン(案内表示)の分かり易さ	<ul style="list-style-type: none"> 外来者にはわかりやすい統一の館名看板を整備 建物名称の変更(豊中総合学館)に関し周知が必要 	<ul style="list-style-type: none"> サインの改善を求める 案内サインに表記がない部局名がある 保健センターに来る人が迷う
7. 建物全般・維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 講義室の大きさが不適切 全学生を収容できる講義室がない ゲストルームが不足している 法経講義棟周辺の建物が老朽化している 文法経本館は、現行バリアフリー基準を満たしていない 法学、高等司法では研究室と講義室が混在しているため、各講義室の防音対策が必要である 大雨時、正門近くの側溝から2~3日水が溢れていた 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が目立つ 細胞棟の老朽・狭域化が進んでいる。トイレの改修や省エネ対策のためフィルム貼りを実施した 空調設備の更新、プレハブ棟の取り扱い問題がある
8. 樹木の維持管理等	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理 保全 	<ul style="list-style-type: none"> 調整池が含まれる部局では、雑草管理が大変 池や竹やぶなどの緑の維持管理をお願いしたい 芝生の除草を年2~3回実施。建物維持管理に経費がかかり、建物裏側の剪定等が実施できない。緑地管理費の捻出に苦労する。全学で実施して欲しい 薬用植物園の維持管理に苦勞している 最近竹林が無くなった箇所がある。緑化を望む。 情報科学研究科周辺では外構の緑化整備を進めている バス停に屋根を設置してほしい 通勤バスが廃止され、非常勤は交通費支給がないので、コミュニティバスがほしい コミュニティバスは患者利用の想定が必要。北千里~歯病~医病~モノレール駅がよい 医病~歯病への患者は160人/日。医療循環バスを要望
9. 通学・通勤の利便性(バスに対する要望)	<ul style="list-style-type: none"> 学生からスクールバスの増便要望がある 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民コミュニティとの関わりを深めていくことが必要 長期的(20~30年)観点で、病院を含むキャンパス全体の建替えや再編の計画が必要 防災の観点からオープンスペースの整備と保全が必要 「地域に生き...」の理念から、門や遊水池の位置づけを明確にし、地域との関わりを深める必要がある 広域の防災拠点の観点をCMPに記載してはどうか 省エネや低炭素化の理念をCMPに入れて欲しい 貯水池や樹林地が近くにあるため、虫が多い ここ1~2年でキャンパス空間がきれいになった
10. その他	<ul style="list-style-type: none"> サークル棟の騒音の問題がある 言語文化研究科北側で騒音(学生の話し声)の問題が出ないように、配慮してほしい カラスが多いので糞を駆除して欲しい 公共性の高い建物には無線LAN設備の設置を望む 	



3-4. 期待と運用評価・検証のまとめ

表. 構成員の意見概要とマスタープランの目標達成度一覧

略号 : CMP キャンパスマスタープラン LDP リーディングプロジェクト DGL デザインガイドライン (豊) 豊中キャンパス (吹) 吹田キャンパス

分類項目	2004~2011年調査で共通の構成員意見	左記の意見等の達成度	2010・2011年調査で顕著な構成員の意見	左記の意見等の達成度	マスタープラン(2005年豊中・吹田、2009年箕面)で設定した目標等	CMPで設定した目標等の達成度	具体的な達成内容	備考	
1. 広場等の場所性の豊かさ	集える空間、くつろげる空間	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外の広場、芝生の広場が欲しい ・カフェなどがほしい ・集い憩えるスペースが少ない欲しい ・きれいでおしゃれな食堂が欲しい 	△ × △ △ ×	・スチューデントコモンズのような場所がもっとほしい	△	○ ○ ○ △ × × × × × × △ △ × △ × △	○ ○ ○ △ × × △ △ △ △ △ △ △ △ △ △	中山池周辺整備 学生交流棟北側広場整備 豊中東口整備 文法経中通り整備 大阪大学会館整備 各キャンパス屋外パリアフリー整備 箕面キャンパス北側整備 箕面キャンパス彩都口整備	
	余裕ある活動空間	・スペースの充実を望む	×	・体育施設	×				
	未利用地有効利用	・一部に十分活用できていない土地がある	△						
2. シンボル性やイメージ等		<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルとなる建物が無い ・統一感がない、雑然とした、殺風景な印象 ・柴原口は酷い、豊中東口は狭い(豊) 	△ △ △	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大学会館はシンボルとして十分浸透していない ・近年の建物は統一感ある ・文系中通りは良くなった ・ゲートが迎え入れる雰囲気でない、千里門整備に期待(吹) 	△ ○ ○ ○ △		△	具体整備物件ではDGLに即して計画している	
3. 福利施設等	食堂の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂の混雑を解消、日曜も営業してほしい ・ゲストを招くことができるレストランが必要 	× ×	・周辺に飲食店がなく、食事できる場所がない	×			総合図書館下食堂改修 スチューデントコモンズ設置(改修)	
	その他の福利施設や全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・温水プールやジム、外国人や老若男女が使えるものを ・ソフトウェア(音楽会等)の充実が必要 ・コンビニの設置、深夜や早朝の営業をしてほしい 	× △ △	・ショートステイ留学生の宿舎などが必要	△	LDP 吹田キャンパスライフロア(豊中や箕面の目標設定は無し)	×	春日丘ハウス整備 21世紀徳徳堂などの活動	
4. 構内交通安全やバリアフリー等	動線の交錯	・自動車、自転車、人の動線を分離すべき	△	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館前でバスと歩行者が交錯→ローラー必要(豊) ・体育会部室前で学生と車が交錯する(豊) 	× ×	豊中キャンパスの歩行者優先強化 吹田キャンパスの交通網整理 箕面キャンパスのバス環境改善 LDP 箕面キャンパスの新北門整備	△ ○ △ ×	車両入構規制 吹田東門(医病前)動線改善 バス停上屋設置	
	駐輪など、自転車の問題	・駐輪場が不足している、十分な数を適切な場所に	×	<ul style="list-style-type: none"> ・施設建設の際、駐輪場の整備目標値(付置義務)が必要 ・自転車やバイクマナーが劣悪、阪大規制が理解不能 	× ×	(分散駐輪場設置 → 方針再検討の必要が発生)	×	交通マナー教育	
	駐車場や自動車などの問題			<ul style="list-style-type: none"> ・環境面からも自動車こそ入構規制を強化すべき ・施設建設の際、駐車場の整備目標値(付置義務)が必要 ・立体駐車場が必要、入構料により整備すべき(豊) ・外来患者の駐車場の充足が必要(吹) 	△ × × △	(立体駐車場設置 → 方針再検討の必要が発生)	△	車両入構規制 医学部立体駐車場 歯病駐車場改修 吹田共用駐車場整備	
	道路構造や構成、バリアフリーなど	・車両進入禁止障害物が歩行者やバリアフリーの障害となる	△	<ul style="list-style-type: none"> ・阪大坂や東口など、破損や滑りやすい場所がある(豊) ・阪大坂は夏の日射が厳しい、木陰や休憩所が欲しい(豊) ・千里門渋滞改善や北門活用が必要(吹) ・H23にできた医病前整備は効果大だった(吹) ・歩行者経路に段差が非常に多い(吹) ・液体窒素等の寒剤運搬が不便で危険 	△ × △ △ △ △	(バリアフリーとサインのフレームワークプランが策定された)	△	バリアフリーとサインのフレームワークプランを策定 阪大坂下並木等整備 吹田さくら環状(工学部北側)通り歩道等整備	
5. 防犯対策	屋外照明設置要望			・まだまだ外灯が足りなく暗い場所がある	△		△	各キャンパス外灯増設	
	セキュリティシステム			・セキュリティと学外者立入に関して考え方の整理が必要	△		×	セキュリティの検討	
	その他防犯			<ul style="list-style-type: none"> ・暗い場所や、繁みが多い ・盗難が多い 	△ △		△ △	各キャンパス外灯増設	
6. サイン(案内表示)の分かり易さなど	・外来者にわかりやすい統一的館名看板が必要	△	<ul style="list-style-type: none"> ・建物名称の変更に関し周知が必要 ・キャンパス全域がわかる地図が少ない 	△ △	(バリアフリーとサインのフレームワークプランが策定された)	○	各キャンパスサイン(案内板類)改修整備		
7. 建物全般・維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・現行バリアフリー基準を満たしていない建物がある ・清掃や塗装等のメンテが行き届いていない場所がある ・特にトイレがきたない 	△ △ △	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が激しい建物が多い、特に学生生活の建物 ・講義室の大きさ、ゲストルームが無いこと、狭小化も問題 ・無線LAN等の設置を望む ・図書館の開館時間を延長を望む 	× △ △ ×	(維持保全マニュアルが策定された)	△	維持管理マニュアルが運用されはじめています		
8. 樹木の維持管理・保全等	<ul style="list-style-type: none"> ・剪定などの維持管理を充分できていない ・緑地の保全をはかるべき 	△ △	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の維持管理はある程度一括発注されているが発注漏れや境界部、樹林地等のバランスが悪いなど問題がある 	△	(緑のフレームワークプランが策定された)	△	緑のフレームワークプランを元にした維持管理の最適化を検討中		
9. 通学・通勤の利便性(バスに対する要望)	・スクールバス増便、土日や時間帯・ダイヤ調整の要望多い	△	・医療循環バスがあると患者の利便向上になる	△		△	学生生活委員会により要望調査と調整を継続実施		
10. その他			<ul style="list-style-type: none"> ・長期的(20~30年)視点で、病院を含む全体の建替・再編計画、緑地や駐車場含めたバランスが必要 ・「地域に生き…」の理念から、門や遊水池の位置づけを明確化、地域住民コミュニティとの関わりを深めることが必要 ・広域の防災拠点の視点をCMPに記載してはどうか ・省エネや低炭素化の理念をCMPに入れて欲しい ・貯水池や樹林地に近いので虫が多い、カラスを駆除 ・サークル棟や学生の話し声等の騒音問題がある ・ここ数年でキャンパス空間がきれいになった ・キャンパスのアートソースの活用が必要 	× △ △ △ △ △ △ △ △ ×	キャンパスアクションプラン(2005年版・2009年版)での「アクションプラン」	△	キャンパスアクションプランの一部が効果を上げている		

達成度の記号凡例 … ○:概ね目標や期待通りの効果 △:部分的に達成した ×:未着手または効果なし ◇:CMPでは目標設定が無かった

意見・期待